

横浜ユーラシア文化館企画展 Special Exhibition

日本・タイ修好130周年記念
タイ・山の民を訪ねて1969～1974
Life in the Mountains of Thailand 1969-1974
2017年7月15日(土)～9月24日(日)
Saturday 15 July to Sunday 24 September 2017

1960～70年代のタイの山岳地帯。そこで日本人研究者が出会ったのは、華やかな衣装をまとい伝統を守って暮らす人々でした。

日本・タイ修好130周年を記念して開催するこのたびの企画展では、1969年から1974年にかけて上智大学西北タイ歴史・文化調査団が収集し南山大学人類学博物館が所蔵するタイの山岳民族の衣装や生活用具等と、同調査団員だった江上波夫が個人で収集し当館が収蔵する関連資料を展示し、調査当時の写真や映像を交えて、日本の調査団の見た山の伝統的なくらしをお伝えします。また、山の民に魅せられた研究者たちの、現在に続くフィールドワークをあわせて紹介します。



モンの村 南山大学人類学博物館提供
Hmong Village
Courtesy by the Nanzan University Museum of Anthropology

会場 3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery
観覧料 一般 300円 小・中学生 150円
Admission ¥300 for adults
¥150 for primary and junior high school students

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m. ~ 5:00 p.m. (券売は4:30 p.m.まで)
8/11, 9/23は午後7時まで(券売は6:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月28日～1月3日)他

観覧料 一般 200円、小・中学生 100円
特別展・企画展開催中は料金が変更になることがあります。
毎週土曜日は小・中学生、高校生無料
「障害者手帳」、横浜市の「瀬どもカード」等をお持ちの方には、
入館料の減免制度がありますのでお尋ね下さい。

12 Nihon Odori, Naka-ku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m. - 5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)
Open until 7:00 p.m. on 8/11, 9/23
(Admission until 6:30 p.m.)
Closed Mondays (except holidays),
Year-end/New Year's recess (28 Dec. to 3 Jan)
Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and junior high school students



<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

アートウォッチング
Art Watching

2

ミエン(ヤオ)の女性用上衣

Garment of Iu Mien Woman

4

書見台

Bookrest

6

チベットのガウ

Tibetan Ga'u

8

蔵品紹介－新収蔵資料－
The YMEAC Collection: Recent Additions

9

ミュージアムショップへようこそ！
Welcome to the Museum Shop!

10

催し物案内
Exhibitions and Events

No.27

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

ミエン(ヤオ)の女性用上衣

Garment of Iu Mien Woman

畠山禎 Tei Hatakeyama



南山大学人類学博物館提供
By Courtesy of the Nanzan University
Museum of Anthropology

濃紺の木綿地に赤い毛糸のポンポンが襟を彩る、丈の長い上着です。両脇のスリット上端にも赤い毛糸の房が見えます。刺繡を施したゆったりしたクロップドパンツ形の下衣にこの上着を合わせ、刺繡のある帯を締めるのが、ミエンの女性の伝統的な服装です。頭には、やはり刺繡のあるターバンを巻きます。刺繡は手の込んだもので、縫い糸と同じような細い糸を用い、表面と裏面にほとんど違いの現れない独特の刺し方をします。

ミエンの上着は、襟の赤こそ目を惹くものの、赤と濃紺だけのシンプルなものです。下衣の刺繡には色とりどりの糸が使われますが、細かいだけに遠目のインパクトは小さく、そもそも半分は上着に隠れてしまい、近隣の山の民であるモンやリスのカラフルな衣装と比較するとむしろ地味な印象です。しかし、細部を見るとさりげなく凝っているのが分かります。

襟のポンポンに隠れる部分には、刺繡が施されています。前側は濃紺の地に直接刺繡され、頸の後ろには、赤い布のパイピングと刺繡を施した白布が見えます。前を留めるのは、小さな球形の銀色のボタンです。スリットの上端にあしらわれた毛糸の房の上部には、白と黒の小さなビーズが使われています。どれも身につけていてはほとんど気付かれることのない部分です。目立たないところに凝るさりげないおしゃれ。日本人にも通じる美意識かも知れません。

This garment was collected from an Iu Mien village in North Thailand between 1969 and 1974. The Iu Mien are one of the hill tribes of Thailand who live in the mountain region and practice slash-and-burn farming, felling virgin forest to plant crops and raise livestock.

This garment was made of indigo dyed cotton and decorated with a long pompom made of red woolen yarn. It is a typical example of the traditional costume of Iu Mien women, which includes such garments, as well as embroidered trousers, sashes and turbans.

At a first glance, red and dark blue colors can be seen in this garment. However, there is colorful and delicate embroidery work under the red pompom. The button with which the collar is fastened is a small silver ball. The ends of the slits on both sides of the garment are decorated with small tassels made with red woolen yarn and white and black beads.

Decorating inconspicuous parts of their garments reflects the Iu Mien aesthetic sense and embodies their cultural heritage. This is something in common with the Japanese aesthetic sense.

ミエンあるいはユーミエンという人々は、中国では瑤(ヤオ)族といわれ、中国西南部、ラオス、ミャンマー、タイ北部の山地を中心に住んでいます。この衣装は、今から45年ほど前のタイの北部で収集されたものです。横浜ユーラシア文化館企画展「タイ・山の民を訪ねて 1969~1974」(2017年7月15日~9月24日)では、この衣装のほか、タイの山の民の民族衣装を展示します。その手仕事の見事さと伝統に裏打ちされたファッションセンスにご注目ください。



書見台

Bookrest

竹田多麻子 Takeda Tamako

イスラーム教の聖典であるコーランなど書物をのせるための台です。X字の形をしており、上部のV字形のところに本を置きます。

二枚の板が交差した部分は釘や蝶番のような金具を使っていません。一枚の木の板から2枚の板を掘り出して、交差部分を凸凹にしているだけです。開く時はこれらを組み合わせ、外せば閉じられます。閉じると二枚の板が重なりコンパクトになるので、簡単に持ち運びもできます。ただ、現在では補強のために交差部分に釘が打たれています。

書見台全体には、彫刻や象嵌、彩色による装飾が見られます。内側には植物のような不思議な模様が青緑、黄緑で彩色され、三角形の白い部分は貝殻です。二枚の板の交差部分は、青緑、黄緑、白で塗り分けられています。

外側は内側よりも豪華な模様で、上面には植物文様で3つの花が見えます。葉や茎の部分は緑で彩色されていますが、花やその周りは削られたそのままの状態です。おそらく象嵌されていた貝殻などが外れてしまったのでしょうか。下面は、幾何学文様が施されています。模様の基線は緑や黒による彩色、模様の中やその周りはやはり貝殻の象嵌です。上面も下面も、文様を囲む四角い枠の三角形部分に貝殻が、一番外側の台形部分には象牙がはめこまれています。下面の幾何学文様が途中で終わっているので、何らかの理由で足となる板部分を少しカットしてしまったようです。

イスラーム教徒の礼拝の場であるモスクを訪れるとき、今でもこのような書見台を使っている様子を目にすることができます。



上から Top



横から Side



イラン イスラーム時代
高42.4 cm 幅20.4 cm
Iran Islamic Period
H. 42.4 cm W. 20.4 cm

This is a bookrest used in the Islamic world to hold books, for example, the Qur'an.

The form is in shape of the letter "X." We can put a book on the shape of the letter "V." It is convenient for us to carry it, because it can be folded up. It is made of only one hollowed out wooden board. The metal hinge is never used.

The decoration of the surface is gorgeous. It is decorated with engraving, shell inlays, and coloring. It has patterns of plants and flowers and geometric shapes. However, some shell inlay has partially disappeared. The foot of each board seems to have been cut off, because the decoration of the lower part ends imperfectly.

Visiting mosques in Islamic countries, we can still see such bookrests in use today.

The YMEAC Collection

蔵品紹介

チベットのガウ

Tibetan *Ga'u*

当館の江上コレクションからチベットのガウ2点を紹介します¹。左頁は女性用、右頁は男性用です。ガウはチベット独特の宗教性と装飾性を併せ持つ小さな金属製の箱型容器です。

女性用のガウ(左)は、直線と曲線を組み合わせた優美な形状ですが、地域によって異なり、より簡素な四角形・六角形・八角形・円形・半円形なども見られます。具体的な使用例としては、雲南省迪慶藏族自治州で行われた調査で、チベット族の女性が春節に集団で神に奉納する輪踊りの場で身につけることが確認されています²。このタイプのガウは、被せ蓋の表面に打ち出し文様、細金細工、トルコ石などの象嵌装飾が施されており、内部には、経文や活仏(菩薩の化身としての高僧)の頭髪・衣服の切れ端などが護符として納められます。上部の筒状部分に珊瑚や真珠を連ねたネックレスを通して首に掛けます。

一方、男性用の厨子形ガウ(右)は装身具ではありません。ガウ中央の窓には内側からガラスを嵌めるようになっており、本来は布でくるんだ小仏像や丸薬、経典などが中に納められます。このガウの被せ蓋の前面は、打ち出し文様が施された地に簡略化された八吉祥(吉祥紐、法輪、幢幡、傘蓋、蓮華、瓶、螺貝、金鯉)や鬼面キールティムカを象った真鍮片が配されています。ガウの両側の把手には紐が通され、肩や腰から提げて巡礼の際に守りとして携帯できるようになっており、古くは20世紀初頭のチベットで撮影されたチベット族男性の装着例が知られています。また、僧院の礼拝堂や家庭の仏間に奉納する場合には、平らな底部を設置面として棚に並べられます。

ガウは日本ではありませんが、チベット文化の研究が盛んに行われてきた欧米では20世紀初頭からガウの収集が行われ、展覧会などで公開されており³、その神秘的で細緻な装飾性が注目されてきました。

福原庸子 Yasuko Fukuhara



ガウ
銀・トルコ石
縦12.2 cm 横12.8 cm 厚2.3 cm
Ga'u
Silver and turquoise
H. 12.2 cm W. 12.8 cm D. 2.3 cm



ガウ
銅・真鍮
縦15.4 cm 横11.5 cm 厚5.2 cm
Ga'u
Copper and brass
H. 15.4 cm W. 11.5 cm D. 5.2 cm



1. 本稿でのチベットという呼称は、中国西藏自治区に限らずヒマラヤ山系とその周辺地域のチベット文化圏を意味しています。

2. 服部等作「チベットの美術工芸におけるガウとその世界—有形の造形と無形の表現」(『表現文化研究』3(2) 神戸大学表現文化研究会、2004年)

3. 欧米では、大英博物館、ヴィクトリア&アルバート博物館、ニューヨーク・ルーベン美術館、ミシガン大学人類学博物館コエルソコレクション所蔵のガウが知られ、日本では2009年、九州国立博物館等で開催された特別展『聖地チベット』で初めてチベット文化が総合的に紹介されました。同展図録に、ガウの写真が掲載されています。

As an amulet, it would have contained such items as printed or drawn charms to ward off misfortune. It functions both as an item of jewelry and amulet.

The men's *ga'u* is a portable shrine. It is made of copper alloy. The cover fits over the plain base which is detachable to accommodate sacred objects—holy pills prepared by lamas, sacred relics, small paintings, and small molded images of deities, all carefully wrapped in cloth—inside to protect the wearer. An openwork glass window on the front usually reveals the sacred figure. The front has brass repoussé design of eight auspicious Buddhist symbols (Endless Knot, Wheel of Law, Banner, Parasol, Lotus, Vase, Conch Shell, and Golden Fishes), and the protective monster mask Kirtimukha below. Such shrine-type *ga'u* boxes were worn suspended on a strap over shoulder or around the waist when traveling. Its flat bottom also allows it to be placed and worshipped on a shelf as part of a shrine.

Museums in Europe and North America have well-known collections of *ga'u*, including those from the early 20th-century expeditions in Tibet.³

1. The term Tibet or Tibetan herein refers to the Himalayan region where Tibetan people live.

2. Tosaku Hattori, "Gau as a Holy Symbol in Tibetan Arts and Crafts" Kobe University Bulletin, 2004

3. The British Museum, the Victoria & Albert Museum, the Rubin Museum of Art, and the Koelz Collection, Museum of Anthropology, University of Michigan are known for their *ga'u* collections. In Japan the first comprehensive exhibition of Tibetan culture was "Tibet: Treasures from the Roof of the World" organized in 2009 by the Kyushu National Museum.

The YMEAC Collection: Recent Additions

[March to July 2017]

蔵品紹介 一新収蔵資料一

2017年3月から7月までにご寄贈頂きました資料をご紹介します。ご寄贈いただきましたみなさま、ご寄贈いただくに当たりご協力を賜りましたみなさまに篤く御礼申し上げます。なお、出版物につきましては、点数が多いため本誌ではご紹介しておりません。整理が終り次第、熟覧に供する出版物はインターネットの目録に掲載し、学習教材として受贈いたしました出版物は、2階展示室内ライブラリーでご利用いただけます。どうぞご活用ください。

※ライブラリーの図書は入れ替えがありますのでご了承ください。

収蔵番号 YMEAC-16-0043～0097



切手等

点 数 55 点

地 域 スロヴァキアほか

寄贈者 清水陽子

収蔵番号 YMEAC-16-0098～0131



江上コレクション追加資料

点 数 34 件 (45 点)

地 域 中国、イランなど

寄贈者 江上綏

切手

赤羽末吉作品（プラティスラヴァ国際絵本原画展）

1981年

Stamp

Illustration by Suekichi Akaba (Biennial of Illustration Bratislava)

Slovakia 1981

Donated by Yoko Shimizu

収蔵番号 YMEAC-16-0132～0134



扇面書画

中国 18-19世紀

Senmen-shoga

(Fan with calligraphy and painting)

China

18th-19th century

Donated by Mitsuko Egami

収蔵番号 YMEAC-17-0001, 0002

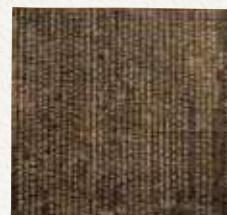


慶陵契丹文字拓本

点 数 2 点

地 域 中国

寄贈者 中見立夫



慶陵契丹文字拓本

中国 遼代

Khitan Scripts (Rubbing)

China

Carved in Liao dynasty

Donated by Tatsuo Nakami

ミュージアムショップへようこそ！

Welcome to the Museum shop!



英文館蔵品図録

Yokohama Museum of EurAsian Cultures Handbook
2017年発行 A5判 1,200円(税別) B5判 800円(税別)



横浜ユーラシア文化館収蔵品の核をなす江上コレクションから、「砂漠と草原」「色と形」「技」「装う」「伝える」をテーマにユーラシア世界の造形約90点を、全編カラー図版・英文解説で紹介する初めての図録です。

This Handbook, with complete English text and fully polychrome plates, introduces major objects from the Egami Collection of the Museum according to the themes "Across Deserts and Grasslands," "Color and Shape," "Technique," "Adornment," and "Word and Image."

シュリーマン直筆幕末日記

1865 年の横浜と江戸

Henry Schliemann's Manuscripts on Japan 1865
2017年発行 B5判 800円(税別) A5判 1,200円(税別)



1865年、幕末の日本を訪れたハイインリヒ・シュリーマンが横浜・江戸滞在中に日々書き綴った日記を、初めて直筆原稿の画像入りで紹介した翻訳本です。幕末の風景や市井のにぎわいにシュリーマンが魅了されていく様子を、当時の浮世絵や幕末写真と照らし合わせて解説した新しい試みです。

This publication is a Japanese translation of Henry Schliemann's diaries (in French and English) kept during his 1865 sojourn in Japan. The first of its kind, the book not only translates but also "revives" Schliemann's impressions of the beautiful land and people of Japan through photographs and ukiyoe artworks which are contemporaneous with his visit.

当館ミュージアムショップでご購入いただけるほか、通信販売でもお買い求めいただけます。
詳細は当館ホームページをご覧ください。

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/shop/publications.html>

企画展 3F

日本・タイ修好130周年記念 タイ・山の民を訪ねて1969～1974 “Life in the Mountains of Thailand 1969-1974”

2017年7月15日(土)～9月24日(日)
Saturday 15 July to Sunday 24 September 2017

1960～70年代のタイの山岳地帯。そこで日本人研究者が出会ったのは、華やかな衣装をまとい伝統を守って暮らす人々でした。日本・タイ修好130周年を記念して開催するこのたびの企画展では、1969年から1974年にかけて上智大学西北タイ歴史・文化調査団が収集し南山大学人類学博物館が所蔵するタイの山岳民族の衣装や生活用具等と、同調査団団員だった江上波夫が個人で収集し当館が収蔵する関連資料を展示し、調査当時の写真や映像を交えて、日本の調査団の見た山の伝統的なくらしをお伝えします。また、山の民に魅せられた研究者たちの、現在に続くフィールドワークをあわせて紹介します。

会 場 3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery

観覧料 一般 300円 小・中学生 150円

Admission ¥300 for adults / ¥150 for primary and junior high school students



アカの少女
南山大学人類学博物館提供

関連企画

ギャラリートーク

日 時 7/30(日) 11:00～ 担当学芸員
8/27(日) 11:00～ 担当学芸員
※9/23(土・祝) 14:00～ 森本智子(南山大学人類学博物館学芸員) •————
9/23(土・祝) 17:00～ 担当学芸員
参加費 企画展観覧料のみ

※9/23(土) 14:00～
ギャラリートーク+ハンズオン!
南山大学人類学博物館学芸員をお招きしてのスペシャルトーク。同館所蔵の民族資料を実際に手に取っていただけます。

ワークショップ

- ・ヤオの刺繡に挑戦!
- ・ヤオの切り紙に挑戦!
- ・ポンポン作り
- ・神様ぬりえ



関連展示

ヤオの神々

会 場 2階常設展示室内ライブラリー
日 時 企画展開催中
観覧料 企画展または常設展の観覧料
協 力 一般社団法人ヤオ族文化研究所

中国湖南省藍山県のヤオ族の儀礼

会 場 1階ギャラリー
日 時 企画展開催中の土・日・祝日 9:30～16:30
参加費 無料 ※材料はこちらでご用意します。
協 力 一般社団法人ヤオ族文化研究所

イベント

特別講演会 Lecture

ウズベキスタン ブハラ・オアシスの発掘調査とシルクロード

Settlement Dynamics in the Bukhara Oasis and its Implication on Silk Road

2017年9月3日(日)
3 September 2017

ウズベキスタンのブハラ・オアシスで多くの遺跡発掘を指揮されているロッコ・ランテ博士をお招きして、ブハラでの発掘調査成果とそれに関わるシルクロードの歴史についてお話を頂きます。

講 師 ロッコ・ランテ博士 (ルーヴル美術館イスラーム部門 研究員)
Dr. Rocco Rante

(Archaeologist, Louvre Museum, Department of Islamic Art)

講演言語 英語 通訳あり

会 場 横浜市開港記念会館 第1会議室(当館より徒歩3分) Yokohama Port Opening Memorial Hall

時 間 14:00～(質疑応答を含め2時間程度) Hours 14:00-16:00

参 加 費 500円 Admission ¥500

定 員 100名(事前申込み制、申込み多数の場合は抽選)

※EAハマ発カード会員の方は優先的に受け付けますので会員番号をお書き添え下さい。

申込み方法 ※往復ハガキまたはウェブサイトでお申込下さい。申込人数は一通につき2名まで。

【往復ハガキ】

参加人数、参加者氏名(全員)、代表者の住所・電話番号をご記入ください。

宛先:〒231-0021 横浜市中区日本大通12 横浜ユーラシア文化館 「特別講演会」係

【ウェブサイト】

アドレス: <http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

入力フォームに必要事項を記入し、送信してください。後日こちらからメールにてご連絡いたします。

申込締切: 8/20(日) 必着

ゲルに集まれ!「スーウの白い馬」の世界へ

Welcome to the Mongolian Ger!

公開期間: 2017年10月1日(日)～10月9日(月・祝)

Sunday 1 to Monday 9 October 2017

・組立: 10月1日(日) 9:40～

・解体: 10月9日(月・祝) 16:30～

当館中庭にゲル(モンゴルの移動式住居)が登場!

ゲルの中もご覧頂けます。ゲルの組立、解体作業の一部にはお客様も参加できます。

どうぞご見学、ご参加下さい。

会 場 中庭

観覧料 無料

時 間 9:30～17:00

※初日は組立終了時から、10/9(月・祝)は16:30まで公開。

※10/2(月)休館日はゲルもお休み。



ロミタン遺跡

月イチ講座

学芸員が語る、月に一度
気軽に聴けてためになる30分

2017.10.28(土)
マルコ・ポーロと『東方見聞録』2
講師 竹田多麻子(当館学芸員)

2017.11.18(土)
遊牧民の考古学(5) 匈奴の遺跡
講師 畠山禎(当館学芸員)

2017.12.16(土)
東部ユーラシア世界と古代日本
講師 平野卓治(当館主任学芸員)

定 員 30名(先着順)

参加費 ~~無料~~ 200円

時 間 14:00～(30分程度)

会 場 当館1階ギャラリー

※当日は常設展示を無料でご覧いただけます。